

グリーンケアやまがの介護DXの取組

人口減少による介護職員の確保が難しい中、グリーンケアやまがでは ICT 機器を活用することで、限られた人員でも利用者さまへ質の高い介護サービスが提供できるよう、2023 年から介護 DX を進めています。介護 DX は、利用者によりよいケアを提供しながら、職員の負担を軽減し、安心して働き続けられる環境づくりに取り組んでいます。

【導入した機器】

①移乗サポートロボット Hug

Hug は、ご自身で立ち上がることができなくなってしまった方へ、座位間の移乗動作、トイレ、浴室などでの立位保持をサポートします。



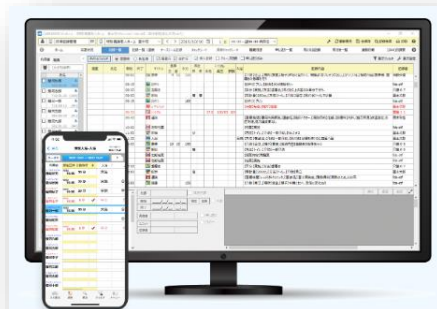
②インカム

瞬時に情報共有ができることから、職員間のコミュニケーションを良好とします。職員を探す手間がなくなり、また、1階事務室との連絡もスムーズになりました。



③ケアカルテとハナスト

2025年1月に介護カルテが変わり、音声入力が可能となりました。利用者さまのケアをしながら音声で記録ができるようになったため、職員の残務を減らすことができました。



④見守りシステム aams

2023年に15台 2025年1月に全床導入しました。センサーから感知される心拍・呼吸・体動の生体情報をサーバーを通してモニター・スマートフォンでモニタリングが可能です。リアルタイムで利用者さまの状況をスマートフォンで確認できるため、転倒などのリスクを速やかに察知するなど、安全面の強化が可能となりました。



⑤走行式リフト

Hugのご利用が難しい方にリフトを使い、安全な移乗を実施しています。職員の腰痛予防に役立っています。



⑥トロリーシャワーバス

寝たきりの方でも安全に入浴ができるストレッチャー型の入浴機器です。入浴の際の複数回に渡る抱え上げが一切不要になることで、職員の腰痛予防と、利用者さまの快適性が向上します。



これらの介護 DX 機器を活用することにより、職員間の情報共有が円滑となり、職員が働きやすい環境になりました。また利用者さまの状態変化を早期に把握でき、転倒予防や安全管理の強化を図り、質の高いサービスの提供が可能となりました。

【グリーンケアやまがの介護 DX】



【グリーンケアやまがが目指す姿】

介護 DX を積極的に活用し、記録や情報共有などの業務効率化を図ることで、利用者さま一人ひとりと向き合う時間を創出し、寄り添いのケアを充実させます。

また、職員の負担軽減と心理的安全性の向上を図り、やりがいと誇りを持って生き生きと働き続けられる職場づくりを目指して参ります。